

## 令和2年度 市議会意見交換会「議員と語っちゃオ!!」 記録

日 時： 令和2年7月1日(水) 昼の部 13:30～、夜の部 19:00～の  
各2時間

会 場： 諏訪市役所 5階 大会議室

参加者数： 昼の部 34名・夜の部 23名 合計 57名

実施方法： 昼・夜の部ともにテーマ別に5グループに分かれ、グループごとに意見交換。テーマは①産業振興や都市基盤などまちづくりについて、②子育てや福祉・健康について、③災害対策について、④自然・生活環境について、⑤その他のテーマ としました。

いただいた主なご意見：

昼の部 ①グループ 議員：吉澤美樹郎・藤森靖明・井上 登 市民の方9名

◎住みやすいまちづくりについて

- ・今住んでいる人が満足できているか、幸せかが問題。
- ・人口減少と高齢化。隣組が成り立たない。
- ・街に人が少ない。空き家の増加、道路の除雪が困る。
- ・尾玉団地、角間新田の市営団地等の有効活用を。
- ・未だにかりんちゃんバスにも乗れないお年寄りが多い。病院に行くにも痛みを我慢している方もいると聞く。
- ・地域コミュニティの重要性。コミュニティが薄くなり、地域のつながりがなくなり、地区運営ができなくなっている。地区が基盤整備の基本と考えます。
- ・駅前東口商店街の空き家対策と若手起業者を結ぶ手伝いはできないか。
- ・諏訪に住んでもらうにはどうしたらよいか。
- ・観光客のためではなく、自分が住みやすい街にする。満足度はどうか。
- ・駅前の商業地が今はどうなのか。街のイメージはどうか。

◎観光資源について

- ・諏訪のまちづくり観光、湯けむりの温泉地、お城の掘りで下駄スケート、街中の川にドロ舟を復活活用しアヤメの植栽をして、観察周遊。
- ・駅前周辺の活性化は東口も西口も含めて考える必要があると思う。コロナで観光客が来なかったが、徐々に動きが出てきている。
- ・市民、観光客とも公共交通機関の利便性向上。

◎今後の産業ビジョンについて

- ・これから（2020年7月から）の中心的な産業を何にするか。
- ・諏訪市がどのような産業に力を入れているかが見えていない。
- ・市議会として何を中心として産業振興を進めていくのか（工業、農業、観光）。
- ・温泉を利用しての観光産業をどの様に進めていくか。
- ・スマートインターを起点とした観光産業の推進、諏訪インターチェンジとのすみ分けを今後どのように進めていくか。
- ・地域開発で具体的に組み直しは可能か（例：住宅地を商業地区にするなど）。

夜の部 ①グループ 議員：藤森靖明・井上登・吉澤美樹郎 市民の方3名

◎産業振興や都市基盤整備などのまちづくりについて

- ・温泉の活用、共同浴場の開放。温泉めぐりデーの設定。
- ・サイクリングロードをもっとPRし、イベントレースやトライアスロンに使用。
- ・空き家の活かし方。移住者呼びかけ。
- ・かりんちゃんバスの運行、接続、ハブ化。
- ・市道幹線道路、時差式信号(赤沼交差点、神宮寺交差点)。
- ・市内事業者の統一ブランド。
- ・メガソーラー計画地跡を、市民の森へ。
- ・東バル跡地利用、産業の拠点に。
- ・呑み歩きの拡大、酒と食のイベントに。
- ・フェイスブック、インスタグラム、YouTubeなどの投稿コンテストを。

**昼の部 ②グループ** 議員：廻本多都子・高木智子・小山博子 市民の方3名

◎子育てや福祉・健康について

- ・学校の消毒は有償でやってもらったらいいと思う。
- ・先生は疲れている。9割ぐらいは授業・授業準備以外の仕事に忙殺されている。
- ・教員資格がなくてもできることは、外部人材に委託したらいい。
- ・市費の教員を増やしてほしい。
- ・これからの教育に対応できる教員人材養成をしてほしい。
- ・中学校の通級指導教室が少ないのでは。
- ・校内の中間教室に先生はいるのか。
- ・これからの子どもは自分で考え行動できることが必要。
- ・これからの道徳教育は自分だったらどうするかという事を考えていく教育。
- ・今後も感染症が続くのでは。
- ・国より長野県基準だとークラスの人数が少ないのでありがたい。
- ・支援員をたくさん雇うより、先生を雇って欲しい。
- ・議員に一日学校体験をして欲しい。

**夜の部 ②グループ** 議員：高木智子・小山博子・廻本多都子 市民の方8名

◎子育てや福祉・健康について

1. 子育てについて

- ・子どもたちと安心して周回できるように、サイクリングロードを早く整備して欲しい。
- ・小中一貫教育の内容が伝わってこない。

2. 福祉について

- ・障がい者用のトイレが2階にある。障がい者用のトイレを1階にすべき。
- ・発達障害の子どもも観られる花火大会を実現して欲しい。
- ・親が離婚すると、親権を失った親とは断絶を余儀なくされ、子どもの成長を見守ることができなくなる。親権の有無にかかわらず学校行事への参加を認めて欲しい。行政として、サポートして欲しい。
- ・コロナ禍で、集まることに不安があり、新しいライフスタイルに対応した生活になじめない。
- ・老人クラブ連合会に加入する単位クラブが少ない。ボランティアの意識が薄れてきている。奉仕活動やサロンへの参加が減っている。

- ・福祉の現場を支えるスタッフ、特に非正規雇用者の待遇改善をして欲しい。
  - ・市民 地域のつながりが希薄になっている。
3. 健康について
- ・子どもの教育環境を整えるオンライン化は図られているが、シニアが今回は孤立している。人との交流ができなくなっているので、シニアの交流を、オンライン化でサポートしてほしい（機器と使用方法を含めて）。
4. その他について
- ・諏訪に会社があり、仕事があり、給料がもらえるように経済基盤を強化して欲しい。働き盛りが転出しないような地域に。帰って来たくなる諏訪、住み続けられる諏訪に。
  - ・コロナ対策で、行政の対応が遅い。何をしようとしているのか見えない。手が足りないならば、ボランティアの手を借りて欲しい。もっと市民を頼って欲しい。
  - ・核家族化で家族が分散することにより、各家庭に文化や地域のつながり、文化の継承が希薄になっている。
  - ・このような会を、公民館単位でも開催して欲しい。

昼の部 ③グループ 議員：牛山智明・岩波万佐巳・牛山 正 市民の方12名

◎災害対策について

- ・防災倉庫の中味のチェックがされているのか？昨年豊田小学校において 1) 毛布の不足、2) 飲料水の賞味期限切れがあった。
- ・防災倉庫にはどのようなものが入っているのか。
- ・避難所の数は足りるのか。
- ・災害時にいかに正確な情報を伝えられるのか。
- ・地域ごとの内容の情報を流してもらえないか。
- ・避難所でのコロナ対策はどうなっているのか。
- ・防災放送は聞き取りにくい。
- ・市内全域どこにどれだけ避難所があるのか。全員避難できるのか。
- ・特に土砂災害は小規模・小さな地区で発生し始めるので、市の連絡では遅い。
- ・防災放送は聞こえないので半鐘の活用を。去年の東北信の災害では半鐘が効果があったようだ。現在半鐘は使われていないが…いかがなものか。
- ・避難所へは車で来るが、車の対策はできているのか。
- ・区の消防団の出動要請について、昨年お願いしたら、署の方に行ってくれと言われた。緊急時の切羽詰まっているときに、それでは遅いと思う。
- ・LINE(グループ)の活用。
- ・霧ヶ峰の市と牧野との協定を大切にして、開発に市議会がきちんとチェックしてほしい。
- ・地球温暖化の中で災害は迫っている。市民の安全をどう計るか。
- ・水害時の避難所について、令和元年の台風19号で本当にその場所で良かったのか。中洲地区…諏訪南中→浸水2m以上はどうするのか。
- ・移動の際に災害に巻き込まれてしまうケースも考えられる。
- ・自治会内で防災講座や訓練をしてほしい。特に昼間在宅している男女に。
- ・隣組自体が高齢化しているため近所だけでは対応できない。
- ・配られたハザードマップの説明を、自治会ごとにしてほしい。

- ・ 水害・土砂などの災害に対する備えが整っていない。
- ・ 災害に対しての意識に各々違いがある。意識付けを強化してほしい。
- ・ 災害に対応する人員が少ない。避難所に対応するスタッフ数が少なすぎる。
- ・ 洪水による災害につき、上川の河川敷が気にかかる。
- ・ 河川管理について
  - 1) 宮川：上金子～下金子、土(泥)の堆積が多く、川の中に樹木や草類が群生し、大雨による水量増が心配。
  - 2) 水田地帯の揚水用河川…泥堆積や草類群生し、大雨による水量増が心配。
- ・ 足の悪い人など、車で避難する人が増えると思われるのでその対応。
- ・ どの時点で避難所へ行けばいいのか、判断が難しい。
- ・ 放送が聞こえない。情報が入ってこない。
- ・ 避難時の移動方法。
- ・ レベル4の時の判断をどのようにしたらよいか。
- ・ 上川の危険個所の特定。
- ・ 河川管理は水害の予防になる。計画的に整備をしてほしい。
- ・ 衣之渡川は危険だから入ってはいけないといわれた(県の管理)。
- ・ 危機管理室の「避難所運営ゲーム」をやってみるといい。所属団体でやってみたが、やってみて分かることがいろいろある。
- ・ 消防の分団は区長からの相談があれば、上と相談して対応できる。
- ・ 消防団は地域貢献したいと思っている。しかし上からの命令がなければ動けない。上の方へ話を上げていただきたい。消防団員の確保が難しいので、地域を上げて協力してもらいたい。

夜の部 ③-1 グループ 議員：岩波万佐巳・牛山正・牛山智明 市民の方4名

◎災害対応について

- ・ コロナ禍の中、避難所の確保について（感染が心配）。
- ・ コロナ禍において、企業によっては消防団活動の自粛依頼があり、活動が限られた。
- ・ 地域住民は消防団に頼りたいが、団は縦の指示での活動である。有事の時は頼んで良いか。
- ・ 土嚢が無くなっている。各地区どのようにしているか。
- ・ 避難弱者に対する対応をどうしていくべきか。
- ・ 避難ルートが解らない。
- ・ 避難時のタイミングは。
- ・ 情報の伝達はどのようにくるか。
- ・ 情報の欲しい人に届いているか。
- ・ 車で避難することは、いけない事か。車の危険さもあるが、歩けない人もいる。
- ・ 地震による液状化について、現実に体験したことがないので、どういった状況が想定され、避難経路について、どう認識していけば良いのか。
- ・ 台風19号のときを思いおこして、避難のタイミングが難しい。
- ・ 危険箇所の周知は。
- ・ AEDのマップがあれば良いと思います。
- ・ 防災力の拡充 … 消防団の担い手不足をどう解消してゆくべきか。

夜の部 ③-2 グループ 議員：小松孝一郎・近藤一美 市民の方4名

◎災害対策について

1. 防災訓練について

- ・諏訪市として防災訓練を毎年小学校校庭などで実施しているが、規模が大きすぎて形式的になっているのではないか。
  - ・私の住んでいる区は上諏訪地区で60戸、高齢化率60%、消防団員も少なく、防災訓練も地域に合わせた形で実施したいので、行政の支援を望む。
2. 防災放送について
- ・防災無線放送が雨風の強いときは聞き取れない、家の中では雨戸を閉めていたらまず聞こえない。
  - ・防災ラジオが高価過ぎて一般家庭には普及しないが対策は。
3. 日頃の防災意識と避難所について
- ・諏訪市で「ハザードマップ」を発行しているが、まだ存在を知らない人がおり、自分が住んでいる地域の危険度について関心が薄い。
  - ・私の区は「自主防災組織」を構築しているが、通常トップは区長であるが1年で交代してしまうので区長OBを起用している。
  - ・コロナ禍の中での災害の場合、3密対策はどのようになっているのか心配だ。
  - ・防災士の活用と資格取得への支援をお願いしたい。
4. 災害時の避難対策について
- ・実際に避難するとき、避難場所にたどり着くまでが心配だ。
  - ・私の区は「自主防災組織」の中で日頃から、避難場所へのルートを確認している。また、日頃から避難の支援を要する一人暮らしの高齢者のリストを作成している。
  - ・遠くにある避難所より、自宅の2階など自宅避難も有効な手段の一つだ。また、近くにある民間の高層建物の所有者と協定を結んでいる。発電機に使用するガソリンの供給に関して、地元のスタンドと協定を結んでいる。
5. 諏訪湖の放流及び浚渫について
- ・諏訪湖の天竜川への放流はどうなっているのか、平成18年の豪雨の際のように逆流する恐れはないのか。
  - ・諏訪湖は31の河川から毎日土砂が流れ着き浅くなっている。浚渫が必要であるが、どのようになっているか。

昼の部 ④グループ 議員：森山博美・横山真・小泉正幸 市民の方4名

◎自然・生活環境について

- ・里山の保全、観光地としての霧ヶ峰開発。
- ・レジ袋有料化、マイクロプラスチック問題、資源ゴミの分類は最終リサイクル名を知らせる。
- ・田んぼのあぜ道等の草刈や整備の仕方による景観のあり方（除草剤を使っており緑色が茶色の景観になっている）。昔の生物がいらない。外来種への関心。歩道のバリアフリー化。電柱の地中化。空き家対策。景観条例の啓蒙活動。
- ・霧ヶ峰メガソーラーの今後。経済第一の開発を止める、地権者への対応、水質問題。
- ・霧ヶ峰：再生可能エネルギーの重要性和開発に対する制限・限度（大小設置のあり方）、情報共有（みんなで繋がって考えていく）情報公開、条例検討、経済第一の開発は困る。
- ・諏訪湖：浚渫再開、ヒシ刈取船購入、微小プラスチック（ポイ棄て条例、諏訪湖から海を変える）等のゴミの問題を解決。
- ・生活環境：市が行う街中の整備、歩道、電柱地中化など社会資本整備が足りな

い、雑草抑制剤の研究。

夜の部 ④グループ 議員：横山真・小泉正幸・森山博美 市民の方4名

◎自然・生活環境について

1. ゴミについて

・焼却ゴミの有料化について

- 1) 必要性。
- 2) 有料化により長期的にゴミの減量はなしうるのか。
- 3) ゴミ出しのルールが守られない（特にアパート）。
- 4) ゴミ捨て場の整備（カラス対策、捨て場が遠い）。
- 5) 有料化による増収分の使い道は。
- 6) ゴミの散乱（不法投棄）。

・資源物（特に紙類）について

- 1) 月2回の回収では間に合わず～業者回収に出す（回収回数は増やせないか）。

2. 諏訪湖の環境について

- 1) 諏訪湖周辺の整備。
- 2) 浅い/くさい/汚い/ヒシの繁茂。
- 3) 自然の豊かさの実感（がない）。

3. その他の環境について

- 1) 側溝の掃除（空家、高齢化）。
- 2) 街灯が不足（街が暗い）。
- 3) ペットマナーが悪い（リードを外す）（ペット嫌いの人もいる）。
- 4) 上川のマレットゴルフ場の補助金を切らないでほしい。

昼の部 ⑤グループ 議員：近藤一美・小松孝一郎・（伊藤浩平） 市民の方6名

◎その他

1. 環境整備について

- ・空家の草木の繁茂や老朽化など、特に周辺が高齢者や生活困窮者の場合、対応に苦慮している。
- ・空家対策については、建築時や取得時に車のリサイクル税（保険制度）のようなものを設け、空家処分の一助となるような制度を検討してほしい（循環の制度）。
- ・里山の雑木処理が進まず、市有地であっても木が密集し、倒木の可能性がある。
- ・河川のヨシや水草の繁茂がすごい。7月の河川愛護月間を活用し、市として取り組んでほしい。
- ・街灯（防犯灯）を増やすのはいいが、電気代は地区の負担。地区はお金がない。

2. 観光・経済について

- ・諏訪の歴史や資産に関連した観光を検討してほしい。例えば古事記、国譲り神話、歌舞伎本朝二十四孝の八重垣姫など、諏訪は良い素材がある。ストーリー性が重要。
- ・住宅リフォーム補助金が終了してしまったが、本制度は建築関係にとって非常に効果があった。復活してほしい。富士見町はコロナ対応で限度額10万円を30万円。
- ・市内の水道メーターの更新が進んでいる。アパートや貸店舗などは大家の負担が大きい。市の事業として進める場合は、補助制度などを検討してほしい。

- ・諏訪は東西に長い。市内の地形等を考慮して一部に開発が集中することが無いようにバランスの取れた開発を進めてほしい。
- ・現在は都市に人口が集中している。地方に人口を分散させるような施策をもっと考えてほしい。
- ・市民 ふるさと納税、返礼品を充実し更なる活用を検討してほしい。

### 3. 教育関連について

- ・小学校で読み聞かせのボランティアをやっている。コロナ禍のなか、読み聞かせの前後でボランティアが教室周辺を消毒しているが、負担が大変。今後、長期の対応になりそう。消毒等の対応について検討してほしい。例えば専門業者を使うなど。

### 4. 国勢調査員について

- ・国勢調査員の選定・募集を地区に委託されるが負担が大きい。国勢調査員の募集を自治体が行う場合がある。長野県内では松本、上田、小諸、伊那、大町、塩尻、安曇野など。検討中の自治体もある。諏訪市も検討してほしい。また、報酬もばらつきがあるように思われる。報酬の値上げも考えてほしい。

### 5. 市議会について

- ・議会基本条例の制定によって、議会改革はどのように前進したか。
- ・議会はチェック機能を十分果たしていると評価しているか。議員の自己評価は。